



みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）

ブリリアンス Next Stage 第11号

～ありのままに今を輝く～

江東区立南砂中学校だより



校 長 近藤 啓太

インクルーシブ教育について 学校評価(中間)アンケートから

- ◎不登校支援が充実しておりありがたい。校長先生はじめ特別支援教育に理解ある先生方が多いから大変助かる！先生方もきちんと支援に力を入れてくださっているから、将来的に不登校支援や障害児支援を受け入れるサポート校になってほしい。
- ◎インクルーシブは大事だが、通常級の子供達が我慢する事がないようにしてほしい。
- ◎学びたいと思う子ども達に安心、安全に学べる環境を作っていただきたい。個性、特性だから改善できない、仕方がないではない。心の安定を優先してほしい。
- ◎C組だけでの校外学習が減ったことが残念。A・B組との交流も大切だと思うが、校外での行事等は普段以上に子どもの負担が大きく、参加が難しくなってしまうこともある。子どもに適した環境、状況で参加ができるよう配慮いただけると、さらに成長につながるのではないかな。

※意図が変わらない程度に文章を縮めました。

今年度の学校評価におきまして、特別支援教育や不登校支援、インクルーシブ教育のあり方、行事の進め方について、保護者の皆様より大変貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見は、それぞれの立場からの切実な声です。一方で、「南砂中学校が目指すべきインクルーシブ教育とは何か」、「公立中学校としてできること、限界は何か」という本質的な問いとして、重く受け止めています。校長として、本校の現状と基本姿勢についてお答えいたします。

1. 本校の特性とインクルーシブ教育の目指す姿

江東区の学校選択制のもと、地元の生徒に加え、特別支援教室の拠点校であり特別支援学級（C組）を併設する区内一の小規模校という教育環境を評価し、学区外からの選択で入学された生徒が約半数を占めます。多彩な背景の生徒たちが同じ校舎で過ごしていること自体が、本校の豊かな教育財産です。

私たちが目指すインクルーシブ教育とは、単に「特別な支援を要する生徒の要望に全て応えること」でも「特定の生徒や学級に我慢を強いること」でもありません。「全ての生徒が互いの違いを認識し尊重し合いながら最大の学びを得る」ことにあります。

2. 公立中学校として「できること」と「制度上の限界」

「サポート校のような機能の拡充」や「完全な個別配慮」へのご期待をいただくことがあります。しかし、限られた教員配置、標準的な学習指導要領、そして教育法規の枠組みの中で運営されております。

【制度上の限界（できないこと）】

民間事業者が担うような柔軟で自由度が高い「サポート校」としての機能や、「特別支援学校」としての手厚い個別専従体制を設けることは制度上困難です。また、学校単独で制度を変更したり、無制限に枠を広げたりすることもできません。

【公立校としての役割（できること）】

規定された制約の中で工夫を凝らし、適切な指導体制を整えることです。また、選択制の中で多様なニーズをもつ生徒が集まる本校の状況や課題については、設置者である江東区教育委員会へ継続的に伝え、連携しながら環境改善や理解の働きかけを行います。

3. みんなの学びを守る苦渋の判断と行事・学習の運営方針

インクルーシブ教育を推進する上で、時に相反するニーズの中でバランスを取らざるを得ない「苦渋の決断」が必要となる場面があります。

【通常の学級における落ち着いた学習環境の確保】

インクルーシブを理由に、通常の学級の授業や学校生活において、「学びの制限」や「度を超えた配慮（我慢）」が生じることは本末転倒です。支援を要する生徒へのアプローチを丁寧に行いつつも、学級全体の安全と落ち着いた学習環境を『組織的に』守ります。

（裏面に続きます）



【交流行事と学級行事（C組行事）のあり方】

C組の校外学習やA,B組との交流授業・行事についても同様です。授業時数の確保という教育課程上のルールを守りつつ、集団での集団行動に大きな負担を感じる生徒へのアプローチをどう着地させるかは難しい課題です。「交流の目的：社会性の育成」と「個別・少人数での集中的な学び」のバランスをどう構造化するか-今後も教育課程の編成において工夫を重ねてまいります。

4. 保護者の皆様へ

学校は、生徒一人ひとりの異なるニーズ全てにこたえられる万能な施設ではありません。時には、学校としての限界をお伝えし、ご期待に沿えないこともあります。年に2回の学校評価や3回の保護者会等において、また個別にご意見をいただきながら、よりよい「みんなの学校」を共に築いていこうと考えます。

伝統あるマラソン大会の「ラスト・ラン」実施について

本校は今年、開校50周年という大きな節目を迎えました。半世紀にわたり積み重ねられてきた歴史の中には、先輩方が汗を流し、絆を深めてきた数々の学校行事があります。毎年冬に行われてきた「校内マラソン大会」も、本校の伝統を象徴する行事の一つでした。

しかし、近年の生徒数の増加に伴う安全面の確保、夏休み延長による日々の授業時間の確保、そして十分な練習期間をとることが難しくなっている現状を受け、行事のあり方を検討してきました。

順位を競い合う競技性の高い大会は、得意な人にとっては全力を出し切るやりがいのある場であった一方、練習不足によるケガや事故のリスク、そして苦手意識のある生徒の参加しづらさなど、様々な課題も抱えていました。

生徒会・中央委員会の皆さんとも話し合いを重ねた結果、本校のマラソン大会は今年度をもって終了することにします。そして、50年の歴史の最後を飾る今年度は、生徒会主催による「マラソン記録会(ラスト・ラン)」として実施します。

内容は、生徒会で検討中ですが、これまでとは形式が異なります。自分で走る距離を選択できます。順位を競うのではなく、自分のペースで完走を目指します。自分の体力や目標に合わせて走る距離を選び、自分なりのペースで最後まで走り切ることを目的としています。

伝統の最後のページをめくるのは、全校生徒の皆さんです。「ラスト・ラン」となるこの記録会に全校生徒で参加し、互いの挑戦を応援し合いながら、思い出に残る一日になってくれることを願っています。

【道徳地区公開講座 9月25日（土）】

本校では縦割り班を作り、地域や保護者の方に加わっていただき意見を交流しています。今年度は50周年を迎える年ということで、南砂中学校の「残したいレガシー」と「未来への新たな一歩」を考えました。自分の通っている学校の魅力を再発見するとともに、学校が地域の方や卒業生の方たちの拠り所として存在しているのだということに気づいた時間となりました。



【残したいレガシー】

校歌・南太・あじみこし・平和学習・少人数だからこそみんなが主役になれる・他学年との交流・仲のよさ・発言しやすい雰囲気・多様性を受け入れられる

【未来への新たな一歩】

校則の見直し・他校や地域との連携・新たな部活動・学校行事の見直し・ICTの活用
《1学年だよりから抜粋》

○今回の授業を通して、改めて南中のよいところに気づくことができた。一人一人が南中の一員として考えることが大事だと思った。

○人生経験が長い大人と話すと言った意見を別の視点で考えられたことが有意義だった。

○この南中をよりよくするには、一人一人の行動や考えが大切。だから、いろんな人が意見を聞き入れてその意見を踏まえていっぱい考えていこうと思う。
《3学年だよりから抜粋》

《退職のお知らせ》

このたび、C組の支援を担当してまいりました非常勤教員（ ）教諭が、退職することとなりましたのでお知らせいたします。

生徒たちとの良好な信頼関係が築かれていた中での退職となり大変残念ですが、これまでC組の授業支援をはじめ、温かいご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。